

令和4年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞受賞

土地は地権者のモノ、 環境は将来の子どもたちのモノ

石川県金沢市 NPO法人みんなの畑の会



市民農園

NPO法人みんなの畑の会は、50年前から急激に宅地化され、現在約8000名が住む四十万地域の環境を守るための活動をしていきます。

高齢化と後継者不足で希少になっていく住宅専用区域の休耕地を活用して、新たな交流と賑わいを生みだすことを目的に2017年3月に市民農園「みんなの畑15区画」を開園しました。

現在は四十万校区6ヶ所で地権者10名の休耕地を活用して136区画、利用者約180家族、保育園、PTA、小学校、企業、団体等、が住民交流の場として菜園ライフを楽しんでいます。

昨年開設した中央園では、四十万小学校【みんなの田んぼ】もPTAと地域の皆さんの協

力で、田植えから収穫までの食育の場も始まりました。伊勢神宮の「伊勢ひかり」を白山比咩神社から頂き、無農薬、有機微生物農法を学び秋には子どもたちが奉納の予定です。保育園のサツマイモ栽培や、秋には「焼き芋交流会」なども開催。四十万小学校3年生の課外授業「タケノコ掘り体験と竹切り体験」や大学のポケットゼミ等のお手伝いもしています。

南四十万園では豊富な地下水を利用して、県立大学環境科学科、県自然環境課の指導を頂き、ピオトープ作りを進めています。地域には天然記念物の「ハッチョウトンボ」の生息地もあったと聞いていますが、蝶々や昆虫、ミツバチ、ホタルも少なくなり、ツバメの飛来数も減少が見受けられます。水生動物や植

物を通じて、子どもたちが故郷の環境変化を体験できる場所になっています。

また、金沢市環境局との協働事業で段ボールコンポストの講習会を開催しています。堆肥として回収し、市民農園で利用して、市のごみ削減の対策事業として生ごみ対策の研究も進めています。

こうした当会の活動は、「石川県・食育推進事業表彰」「石川県・石川地域づくり表彰」「石川県・いしかわエコデザイン賞(竹ドーム)」「石川県・いしかわ版里山づくりISO認証」「共同通信社主催・地域再生大賞優秀賞」「金沢市・いい金沢環境活動賞」等を頂いてお



収穫体験の様子

ります。

【土地は地主さんのものですが 環境は将来の子どもたちのもの】と考え、【私たちは子どもたちに美しい地球を引き渡す義務がある。なぜなら私たちが美しい地球を先人から引き継いだから】の理念で、先祖代々の農地を借り手の利用者と共に守り、懸念される食の安全問題と環境問題も相互が思いやる場所と機会になるものと信じています。

市民農園「みんなの畑」に隣接した農機具小屋を、ボランティアで改装し委託販売所【みんなのお店】を3年前に開設しました。市民農園利用者に限らず、周辺の農薬不使用で栽



看板も子どもたちが作成

培された野菜や果物、花、苗はもちろん趣味で作られたクラフト製品なども持ち寄り、販売ボランティアと地域の皆さんとの交流の場所となっています。将来は、道の駅に代わる【街の駅みんなのお店】として、地域交流の場所としての活用を目指しています。

地域の地権者のほとんどの方が、後背地の里山の持主でもあり、昔は青りんご栽培の里山が放置され、孟宗竹の増殖で竹林も荒廃しています。昭和初期、タケノコの缶詰め工場があった地域で手入れすれば美味しいタケノコが収穫できる土壌です。

市民農園利用者のタケノコ掘り体験会の要望から、竹林の整備伐採、散策路作りなどを開始し、金沢市森林再生課などの協働事業として採択も頂きました。多くのボランティアの参加で整備した場所に記念植樹（現在までに桜、紅葉など15本）をしています。

整備された杉林では、キノコホダ木のオーナー制度で現在、シイタケ用900本、ナメコ用370本を共同管理し、約390名がオーナー制度で収穫を楽しんでおります。シイタケは「しじ丸」ナメコは「たま姫」と公募でブランド化も行いました。

子どもから、高齢者の皆さんや障がいを持たれた方も憩える場所として、【自然に親しみ自然にまなび 自然と遊ぶ】ことを目的に



憩いの場【みんなの森】を整備中でツリーハウスや遊具等、 possible の限り「竹」を利用して造成中です。

【みんなの森祭り】の開催など、文化的住民交流として、将来世代につながることを目的として計画しています。

四十万地区では、イノシシ、クマ、サル、鹿などの鳥獣被害も増えており、鳥獣害対策として、竹林整備でできた緩衝帯で、金沢工業大学ロボティクス学科、石川県立大学、国際



竹ドーム

高専、民間企業（株）シコウと鳥獣害対策研究グループで、鳥獣害対策ロボットの研究も進めております。整備中の里山は大学のポケッツトゼミの研究拠点としても活用しています。

13年前から、竹を活用して家庭菜園の資材小屋を作って参りました。

整備伐採した竹を焼却廃棄処分するだけでなく、SDGsの観点からも「竹」を資源として有効に活用することを目的に、風雪に耐え、簡単・安価に製作できる農業用ハウスとして【竹ドーム】を考案しました。知的財産権も地域ボランティアの皆さんの連名で手続き済みです。

雪国では、農業用ハウスの倒壊により多大な損害を受けています。竹はシナリと強度があり、近年の豪雪や30mの風にも耐え、腐りにくい構造を考案。マスコミ各社の報道やSNSを通じて、全国からのお問い合わせがあつたため、竹ドーム製作マニュアル費用を、クラウドファンディングで募集。全国から102万7千円の支援を頂き作成できました。

現在では、北海道から沖縄の石垣島まで、全国に向けた竹ドームの普及活動費用として、1冊3000円と送料370円で制作マニュアルをお届けしています。各地で【竹ドーム普及研究会】設立の提案を開始し、竹林整

備と竹の有効使用の拡がりにつながることを願っています。

竹ドーム製作マニュアルは、できるだけ分かりやすさを基本に考え、4人のメンバーで企画を進めてきました。写真・図面だけでは分かりにくい部分は動画をご覧いただき、皆さんの普及活動にお役に立てるように作成しました。今後も改良・改善案が出てくると考えており、案が出る都度、情報を公開して参ります。

各地域別の交流を求められる方も多いため、【竹ドーム普及研究会】のグループ設立のご相談をしています。石川県のホームページにおける「石川県エコデザイン賞・2021年度プレゼンテーション映像」をご覧ください。今後も次世代に持続可能な活動を続けるため、新規産業の考案と起業を目指す若者の支援を続けていきます。

(NPO法人みんなの畑の会代表 西田敏明)



全国普及の竹ドーム製作マニュアル